

協働のスタイルを見せるのは、大井川未来予想図検討会ばかりじゃない  
「まちの未来を創り出そう」とする意志と、資源を生かすアイデアがあればいい  
より多くの人の手で関わっていったら、きっとこの町は、もっとすこくなる

共に一つのことに取り組もうとする

動きは、こんなところにも

## 協働のカタチ

### 中学生×町民×川根茶業組合×商工会×行政 川根茶ようかんで「ギネス」に挑戦

中川根中学校3年生が長さ130メートル超の茶ようかん作りを企画 会場：中川根中体育館



#### 多くの人々が挑戦に協力

中川根中3年生が企画した「茶ようかんでギネスに挑戦」は3月6日、同校体育館で実施されました。総合的な学習の時間で「本町の活性化」について学んでいた小田綾音さん、山本真祐香さん、横田知

花さんが企画し、町、商工会、川根茶業組合などが協力する形で実現しました。

当日、世界一の茶ようかん作りのために用意された材料は水240リットル、生あん48キログラム、砂糖60キログラム、かんてん1920グラム、川根茶の粉末1500グラムな

ど。会場には地域住民など約230人がつめかけました。佐藤公敏町長は「中学生がらすてきな提案をいただきました。川根茶の未来を育てるため、みんなが一丸となつて取り組んでいくことに意味があります。今日の挑戦が、その一つのきっかけになることを願っています」と参加者全員にエールを送りました。10時20分、仕込みが終わったようかんの材料がお椀などに小分けされ、次々と館内に運びこまれました。その場にいた全員が一つずつ手に持ち、横田知花さんの合図で、一斉に筒へと流し込みました。

#### 全員で喜びを分かち合う

ようかんが固まったのを確認したのち、長さを計測。全体の距離が発表されました。結果は「132.9m」。見事世界一の茶ようかんが生まれました。館内はこの日最高の盛り上がりを見せ、全員で大きな拍手。記録達成の喜びを分かち合いました。

申請用の写真を撮影した後、ようかんは小さく切り分けられ、全員で舌鼓を打ちました。

左から横田知花さん、小田綾音さん、山本真祐香さん…「川根茶」の名を全国に広めることができなかつたと検討しました。他県に110碗の水ようかんの記録があると知り、それを超える茶ようかんを作ろうと考えました。でも最初は、とても実現できるとは思ってなくて…。大変なことも多かったけれど、たくさんの方が手を貸してくれ今日を迎えることができました。この町には、こんなに優しい人が大勢いるんだと実感しました。皆さんの支えが、本当にうれしくて心強かった。この町を盛り上げたいという思いが、さらに強くなりました。



### 町民×商工会×島田信用金庫川根支店 「ふれあい市」が交流のきっかけに

本町商工会主催「ふれあい市」を2月15日に開催 会場：島田信用金庫川根支店駐車場



#### 8店舗が名乗りを上げた

本町商工会が主催する「ふれあい市（協賛：島田信用金庫川根支店）」は2月15日、島田信用金庫川根支店駐車場で

会場に開かれました。

元々、牧之原市（相良地区）や島田市（金谷地区）で定期的に開かれている同様の朝市を参考に、本町商工会商業部が「本町でも同じような朝

#### 触れ合いの場創出に

「こんにちは」「寄つていて」と出店者の元気な声が響くと、それにつられるように、地域住民の皆さんが市へと足を運びます。「第1回の方が客足は良かった」と商工会職員は話しますが、それでも、終了を待たずに売り切れてしまふ店舗もあるほど売れ行きは好調でした。

「ふれあい市」の名前の通り、地域住民同士が交流する場として、温かな一面が垣間見える催しでした。次回開催は4月15日を予定しているとのこと。

商工会職員の西澤孝仁さん…いずれは相良や金谷のふれあい市の人たちとの交流を実現させたいと思っています。こちらの店舗が向こうに、向こうの店舗がこちらにというように交流ができれば、訪れるお客さんも新鮮さが増えますし、楽しめるんじゃないかと思います。それぞれの町によって商売の仕方も違いますから、私たちが改めて勉強になります。この「ふれあい市」はまだ始まったばかりです。今後、年間通して開催し、徐々に出店数も増やすなどして、地域への定着を図っていきたく考えています。

